

# 三条地震の仮設住宅

文政11年（1828）11月12日の午前8時ごろ、新潟県中部の南蒲原郡栄町から三条市を中心とする信濃川下流域一帯で、マグニチュード6.9と推定される地震が発生した。

家屋の倒壊や焼失、堤防の決壊、地割れなど、さまざまな被害を引き起こし、死者1600人、怪我2600人、家屋全壊13000軒に達したという。当時の被災地は、多くの小藩や幕府領に分かれていたため、正確な数字は知り得ない。

その具体的な状況は、多くの記録や絵図、「地震くどき」などに書き留められ、後の世に「三条地震」の名で語りつがれた。その一つに、旧長岡藩士小川當知が明治12年（1879）に著した『懐旧雑誌』がある。同書では「大地震一件」と題して、城下や領内の被害状況を書き記しているが、右の絵図「地震之節小屋住居之図」はその挿し絵である。

『懐旧雑誌』は三条地震の約50年後に書かれたわけであるが、當知自身若い頃にこの地震を体験しているようで、文中には「翌春中嶋辺へ野遊びに行きしに幅二三尺長さ数丈地破裂せし場所所々あるを見たり」という記述がある。

被害状況は、例えば、「本丸 ○住居向大破 ○三階櫓大破地形割 櫓ヶ所大破内一ヶ所地形割傾ク ○多門大破 ○門大破 ○冠門大破 二ヶ所内一ヶ所石垣崩傾ク ○塀倒三十七間……」というように詳細に記録されているが、これは、藩から幕府へ提出した被害報告書から転記したようである。長岡藩は幕府から5000両を借用して災害復旧に当たった。

さて、絵図には震災後の仮設住宅が画かれているが、当時の様子がよく分かるので、つぶさ

に眺めてみよう。

まず小屋の造りを見ると、丸太の柱を斜めに立て掛けて横木で押さえ、外側にヨシズ（葦簾）を張り付けている。また、入り口には細木を渡してムシロをくくり付け、開閉できるようにしてある。

小屋の内部には地炉（囲炉裏）を掘って火を燃し、長い縄に結わえた自在鉤には、大きな茶釜が吊るされ、さかんに湯気を吹き出している。主人は水桶を重そうに運びこんでいる。彼は脇差をおび、着物の裾をからげ、足袋と下駄を履いている。

囲炉裏の回りにはムシロを敷き詰め、二人の子が暖まっている。母親は姉さん被りに襷掛けの姿で、火箸を持ち、お湯の沸くのを待っている。左端の土間には炭俵と手桶、反対側には把手付きの物入れ箱、そばには大きな蓋付きの鉄鍋が並ぶ。飯櫃の桶の上に、3組の膳と食器が積まれている。

右手奥には紫色の綿帽子を被った老婆が座り、夜着を掛けて暖を採っている。手元にはキセルとたばこ盆、背後に黒塗りの鎧櫃と頑丈な造りの箆笥二棹が見える。箆笥の上の覆いからは、刀懸けと大刀がのぞく。この老婆と箆笥を4面の屏風で囲い、すきま風を除けている。

右奥の布団と箱枕は、家族の寝具である。貴重品と最低限の家具を家から運び出して、小屋に納めたものと思われる。

冷たい地面、すきま風の吹き込む中ではあるが、よく整頓された室内、老人をいたわる姿、5人家族の穏やかな表情からは、災害にめげることなく、心を寄せ合って過ごしている雰囲気を感じられるが、そこには小川當知の「かくありたい」という心情も込められているように思われる。

御近領之景况

- 一 照し町。の渡家八十八軒。の半渡四十四軒。の五人五人。の遊我八回五人
- 一 子板。の寺社大破十三所。の渡家二百六十七軒。由八十軒。渡家失調。の半渡八十六軒。の渡家三百軒。の五人三十四人。の遊我二人二百八十人
- 一 中之嶋。の渡家百九十九軒。の半渡三軒。の五人三十八人。の遊我一人不知
- 一 今町。の渡家三百軒。由百三十三軒。の半渡十二軒。の五人三十八人
- 一 三條。の渡家百三十三軒。由百三十三軒。の遊我一人不知。の半渡二十軒。の五人三十八人
- 一 北茂。の渡家十七軒。の遊我一人三十人。三百八十八人。の遊我一人三百八十八人
- 一 大面。の渡家七軒。の半渡十二軒。の五人六人。の遊我一人二人
- 一 見附。の渡家五十五軒。由三十三軒。の遊我一人。の半渡三十一軒。の五人百十八人。の遊我一人六十人



「地震之節小屋住居之図」(相沢富士雄氏寄託) / 長岡市立中央図書館蔵

蒲原西組 ○ 漢家百七十一軒 ○ 半漢三百三十三軒 壯我人十五十八  
 死我人七人 ○ 壯我馬四匹

郷中漢家並了死之人御手之當

米三俵 庄屋 米八俵 百姓 米壹俵 名子 但半漢之半取

錢五百文 死去之者 錢山百五拾文 十歲以下死去之者

地震之節小屋住居之圖

- 一 初庵組猪沢村家數百二十軒之如  
 立家六軒外皆漢死人二十二人
- 一 田井村家數百三十軒之如立家  
 三軒外皆漢死人三十二人
- 一 山崎村家數九軒之如皆漢死人三人
- 一 名不野村家數百三十軒之如皆漢  
 死人三十七人
- 一 和田時水村家數五十六軒之如皆漢  
 死人十七人
- 一 大田村家數六十一軒之如立家三軒外  
 皆漢死人十二人

